

これまででは主に東日本大震災からの災害復旧の様子を紹介してきましたが、災害復旧もほぼ完了してきたことから、今号からは、河川課で行っているイベントや事業等の紹介も行っていきます。

今号の内容の一つ目は、災害復旧の現場の紹介です。今回は高萩市内の石滝地区海岸の復旧を取り上げました。

現場のすぐ近くには天然記念物に指定されている「いぶき山イブキ樹叢（じゅそう）」（日立市十王町伊師）があり、現地からも見る事ができます。

二つ目は、今月行われた河川課の行事の中から、平成二十四年度第一回茨城県河川整備計画検討委員会について紹介します。有識者の方を委員とした河川整備計画検討委員会を設置して、河川整備計画の作成や現在行っている河川整備事業の再評価などの検討を行っています。

三つ目は、今月末に開催された「建設フェスタ2012」の紹介です。国や県、県内の建設業関連団体が一体となって建設業の魅力や公共事業の必要性を大規模にPRしました。河川のブースも出展しました。

来月号では、災害復旧完了箇所の紹介のほかに、小学校に出張し子供たちに河川事業について説明をする「出前講座」の様子などの紹介を行う予定です。



いぶき山イブキ樹叢

◎石滝地区海岸の堤防復旧（高萩市石滝）

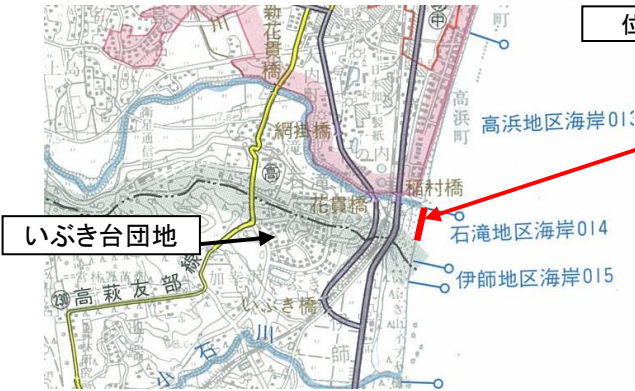
【復旧完了箇所】



海岸堤防の水叩き部が地震によって、波打ったり、亀裂が入るなどの損傷を受けました。

水叩きは、波が越流したときに海岸堤防が簡単に壊れてしまわないように表面をコンクリートにより作られています。

復旧については、損傷した水叩き部を取り壊した後、生コンクリートの打設を行いました。



位置図

石滝地区海岸
海岸堤防の損傷
L= 442 m

いぶき台団地

いぶき山イブキ樹叢



被災状況写真



施工状況写真①

損傷した水叩き部のコンクリートを取り壊しています。



施工状況写真②

生コンクリートを打設しています。



完成写真



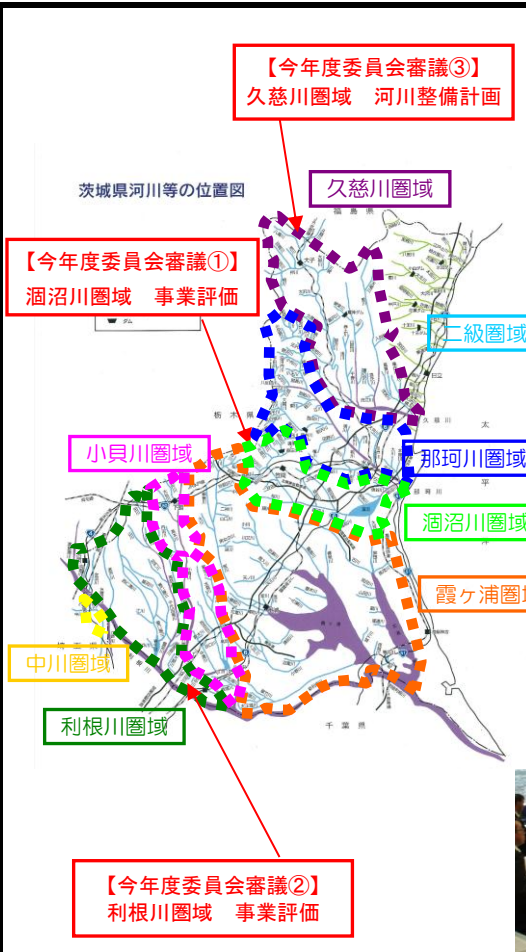
◎平成二十四年度第一回茨城県河川整備計画
検討委員会について

茨城県では、治水・利水に加え環境にも配慮した河川整備を推進するため、茨城県河川整備計画検討委員会を設置し、河川整備計画の策定を中心とした各種検討を行っております。委員会は、各分野の学識経験者などで構成されています。今年度の第一回目の委員会は十月二十三日に開催されました。

今回の議題は、河川整備計画に位置付ける事業のうち、涸沼川圏域と利根川圏域の事業河川の再評価です（圏域については左図参照）。河川事業の再評価については、五年ごとに当委員会で実施することになっております。

委員会の会議の前に涸沼川圏域の事業河川の現地調査を行いました。（写真は涸沼前川「茨城町長岡」における調査状況）

会議では、委員の方々から、費用対効果の計算手法や環境面についてなど、様々な意見を頂きました。次回以降の委員会で、今回頂いた意見についての対応等について回答する予定です。



◎建設フェスタ 2012 の開催結果について



魅力ある建設産業の確立を目指して、建設産業のイメージアップや若い人々への魅力づくりのために、毎年行われているイベントです。第十九回目となる今年は十月二十八日（日）に国営ひたち海浜公園西口ゲート前特設広場で行われました。主催は国や県、県内の建設産業関連団体で各地から親子連れなど約一万五千人が集まり、建設業の魅力を体験しました。

茨城県土木部でもブースを出展し、河川課からも震災復興写真のパネルなどを掲示しました。（写真①）

子どもたちに人気があつたのが土のう作り体験（写真②）で、指定された重さの土のうを作ることができると賞品がもらえるため、好評でした。この土のう作り体験のスタッフとして河川課の職員も参加しました。土のうは災害復旧の時に多く使用される材料で重要なものです。楽しみながら土のうの作り方や用途を覚えてもらえたと思います。

また、河川課ダム砂防室の職員によるダム模型実験（写真③）も行われました。こちらも分かり易いと好評で多くの方が見に来ていました。記者体験をした小学生からは、「ダムの話が分かりやすかった。パンフレットをもらったし、学校で先生に自慢したい」というコメントを頂き、新聞の記事に載りました。

この機会に、東日本大震災による災害の復旧の状況や建設業の魅力などを皆様に伝えることができたと思います。



【河川かわら版】
発行 茨城県土木部河川課
〒310-8555 水戸市笠原町978番6
TEL 029-301-4485
HPアドレス
http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/doboku/01class/class06/

